



登校する「標準服」の新入生と、従来の制服の上級生＝臼杵市臼杵、撮影・山戸孝哉

公立中 広がる標準服

男女共通デザイン 複数校で統一

県内の公立中学校で「標準服」の導入が進んでいる。制服を男女共通のデザインにし、複数の学校で統一。性別で分けないジェンダーレスへの対応に加え、大量生産でコストを抑える利点がある。本年度までに9市町が採用した。生徒や保護者からも好評という、今後さらに広がる見通しだ。

臼杵市は本年度、市内の5校全てで、新1年生から標準服にした。同市臼杵の東中(126人)では10日、真新しいブレザー姿の新入生と、従来の制服を着た上級生が一緒に登校する様子が見られた。ブレザーにスラックスを合わせた女子生徒もいた。1年の織田陽渚さん(12)は「きつちりして、かっこいいイメージになった」。長谷川健人さん(12)は「軽くて着やすい。男女に関係なく着たい方を選べていいと思う」と語った。3年の衛藤愛華さん(14)は「セーラー服を見られなくなるのは寂しいけど、動きやすいし、私はスラックスを選んで良かったかもしれない」と話した。

同市の検討委員会で議論を進めてきた後藤徳一校長(67)は「スカートは清掃や活動を

9市町導入 生徒、保護者にも好評

しにくいという声もあった。ジェンダーレスの観点はもちろん、体形に合わせやすく、上着を脱ぎ着して体温調整もしやすいと利点を説明した。各市町村教委によると、大分、中津、国東の3市が昨年度、複数校で統一仕様にした標準服を始めた。今春から別府、臼杵、竹田、宇佐、由布、日出の6市町も取り入れた。導入後も一部の学校で独自の制服を残す市もある。

いずれの市町もブレザー型を標準服に採用。かつての「学ラン」「セーラー服」に比べて性差の区別がなく、悩みを抱える人に配慮できるようにした。統一することで学校間の価格差がなくなり、物価高の中でも値上げを抑えた。保護者も好意的に受け止める。別府市は全7校で導入。市教委が実施したアンケートでは、男女を問わず服を選べることに對して8割以上が肯定的な回答だった。市内全校が同じ制服になるため「自分の買いたい店で購入できる」「お下がりをもらいやすい」との声も検討委員会で上がったという。来年度は日田、佐伯、杵築の3市が予定している。他の自治体も、各校でブレザー型への変更や、女子生徒がスラックスを着用できるようにするなどの対応を取っている。(佐藤光里)

〔問①〕標準服を導入した9市町は「学ラン」「セーラー服」でなく、「何型」を採用していますか。

〔問②〕公立中学校で広がる「標準服」。利点を記事から2つ挙げよ。

〔問③〕あなたは標準服に賛成ですか？ 反対ですか？ その理由は？